

「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学農学部1年 加藤 歩美

今回のプログラムは中国語の授業が非常に充実していました。私は中級クラスに所属しており、最初はついていけるか不安で緊張していましたが、先生方が優しく、クラスの仲間も多かったことから3週間みっちり勉強できました。中国語メインで時々英語が混ざる授業は新鮮で、新しく語彙を習うごとに聞き取れる単語が増え、日々成長を実感しました。最終週ではバスに乗り合わせた学生の会話も単語程度は聞き取れたり、先生が中国語で話した笑い話を笑えたりしました。授業を通して思ったことは、語学は積極的にいかないと伸びないということです。手を挙げて発表する形式だと、後ろのほうに座っていたらしっかり挙げないと発言権がもらえません。授業の参加度によって中国語の伸びは大きく変わってくると思いました。また、つたない言葉であっても通じた経験は自信になります。寮の音楽室を借りる際に持っている語彙を駆使して説明し、自分のやりたいことが伝わった時の喜びは大変大きいものでした。

日本人学生も多かったですが、ほかの国からの学生も参加していて、主に英語で交流しました。留学生同士の会話になると母語でないのに話すスピードが速く、聞き取るだけで精一杯になり、コメントに苦労しました。自身の英語レベルを痛感するよい機会になったと思います。背景知識の不足もあって今回はあまり深い話ができず、そこは悔しかったです。しかし、帰国してから自分の意識に変化があったことに気が付きました。留学する前は日本でみかける海外からの観光客に対して、「外国人」と無意識のうちに壁を作っていました。留学後は同じ人間だと親しみを感じるようになりました。様々な国のクラスメイトとペアを組んで中国語の練習をしたことで自分の中の国際化が進んだと思います。一緒に印鑑やシュウマイを作った文化体験も思い出です。

休日には現地学生おすすめの長州島やマカオに行きました。長州島はルームメイトと行き、自分で計画して誰かを連れていく経験がほとんどなかったため、責任を感じながらの貴重な時間になりました。マカオでは西洋の建築と東洋の店が混在している不思議な街並みを歩き、混沌としたアジアの断片を見ることができました。

私が今回の留学で得られたもののうちの一番は、夢を応援してくれる仲間です。中国語の授業で大学卒業後に何をしたいかを問われることが多く、そのたびに研究者と答えていました。まだ漠然としているものの、上回生からアドバイスをもらうなど、このサマースクールに参加しなければ出会えなかった人たちから温かく励まされ、とても嬉しかったです。さらに、中国語で専門科目の授業を受けてみたいと交換留学の方面にも関心が湧きました。これから後期の中国語の授業も継続して頑張っていきたいです。そして、団体とはいえビザ申請や各種手続きは個人でやる必要があったため、出発前は大変でしたが、海外へ行くという自分のハードルは留学を通してかなり下がりました。この経験を活かしてまずは海外の学会に参加してみたいです。